

# 文化施設

- ・大阪府立中之島図書館書庫棟 【施工中】
- ・日本万国博覧会記念公園 E X P O ' 7 0 パビリオン別館
- ・大阪府立狭山池博物館
- ・大阪府立近つ飛鳥博物館



南東外観



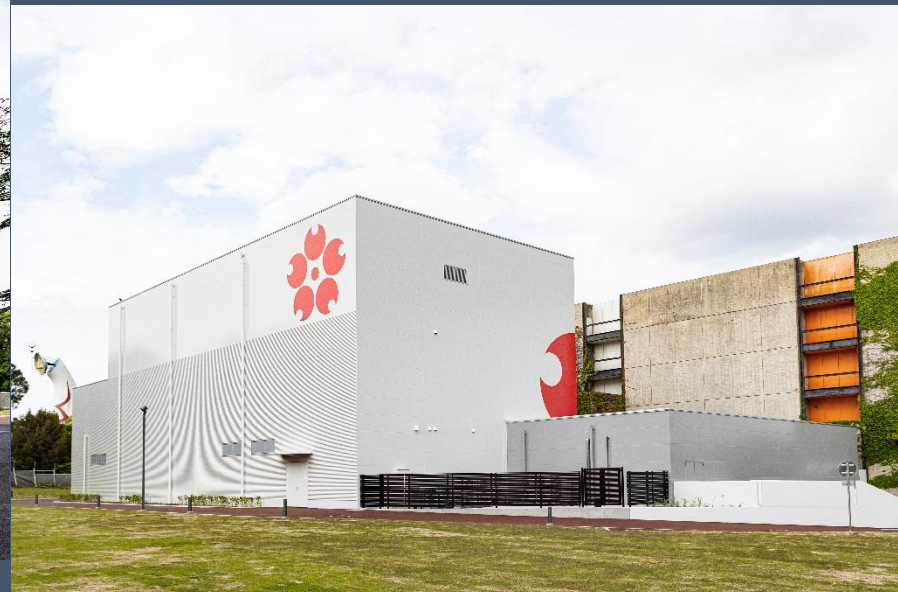
中庭

※パースは設計段階のものです。

- 所在地 大阪市北区中之島一丁目
- 敷地面積 4,374平方メートル
- 建築面積 450平方メートル(付属棟含む)
- 延床面積 1,953平方メートル(付属棟含む)
- 構造階数 鉄筋コンクリート造 地上5階建(鉄骨造 3箇所)
- 工事期間 令和4年10月 から【施工中】
- 設 計 株式会社内藤建築事務所 大阪事務所
- 施 工 株式会社藤木工務店 大阪本店
- 請負金額 【施工中】

本施設は、南北を土佐堀川・堂島川、東西を大阪市中央公会堂・大阪市役所に囲まれた場所に位置し、中之島図書館の既存書庫を集約するとともに本館・北館・南館上階へのバリアフリー動線を整備することを目的として計画されました。

計画としては、既存書庫位置に新書庫を建設し、事務機能を既存の事務棟から別館へ移動、敷地南東角に緑地を創出し、土佐堀川沿いの親水空間との相乗効果で都市に潤いを与えるものとしています。また、図書館の基壇の高さ3m、図書館の軒高と公会堂の外壁帯高さ15m、図書館屋根高さ17mを基準とし、街区全体の構成を踏襲、また建物色彩は重要文化財である本館の石の外壁と本館ドーム屋根に合わせることで川筋計画の連続性を保ち歴史の継承を行っていくものとしています。

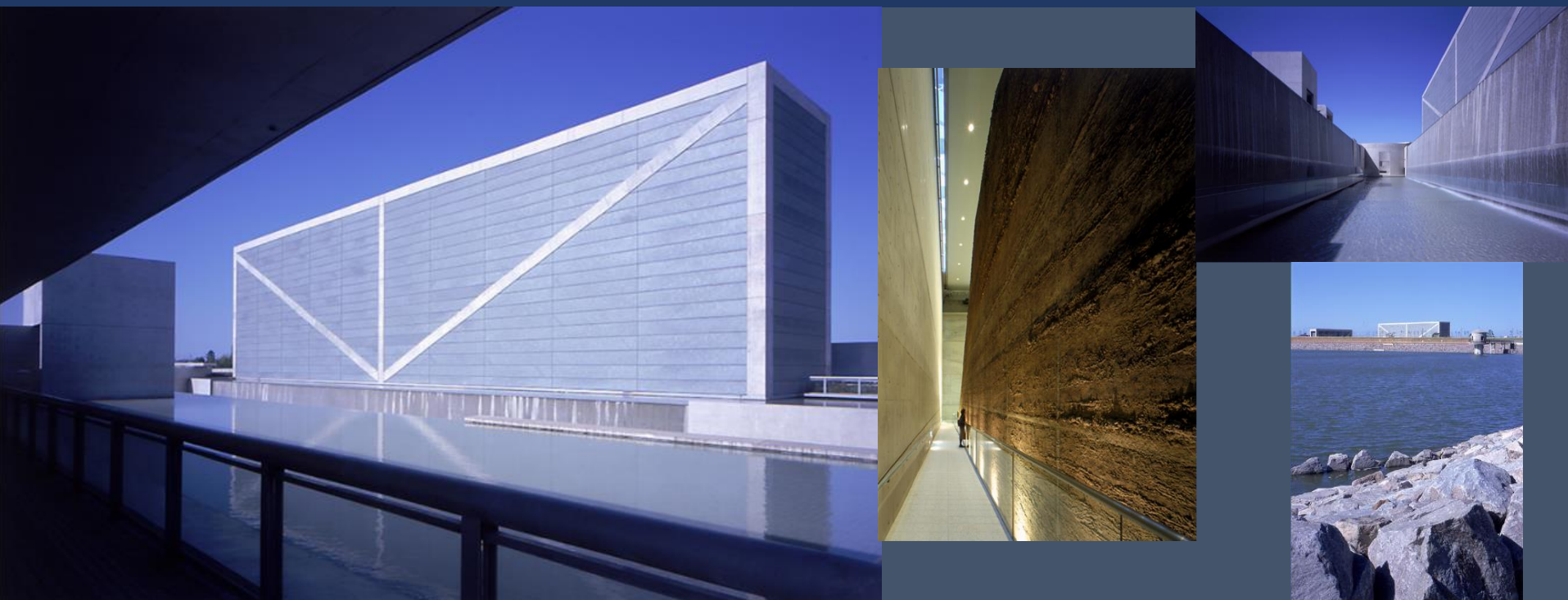


- 所在地 吹田市千里万博公園
- 敷地面積 4,765平方メートル(施行区域面積)
- 建築面積 862平方メートル
- 延床面積 1,217平方メートル
- 構造階数 鉄骨造 地上2階建
- 工事期間 令和3年12月から令和5年4月
- 設計 株式会社エスディーネットワーク
- 施工 藤原工業株式会社
- 請負金額 535,700千円

本施設は、初代黄金の顔をはじめとする1970年大阪万博のレガシーの価値と魅力を広く発信する新たな展示施設として建築されました。

本計画の最大の特徴は太陽の塔・初代黄金の顔の立体展示であり、その他多くの1970年大阪万博関連資料を展示する事により、1970年大阪万博世代のみならず、多くの世代の方々に当時の世界観や感動、歴史を感じ取れるような施設を目指しています。

万博記念公園の自然環境及びEXPO'70パビリオン本館と調和の取れた計画とし、EXPO'70パビリオン本館と展示施設として一体利用する為、安全に往来できるような動線計画としています。また、敷地環境に配慮し、省エネ効果の高い材料・機器の選定を行いました。



- 所在地 大阪狭山市池尻中2
- 敷地面積 15,412平方メートル
- 建築面積 3,774平方メートル
- 延床面積 4,948平方メートル
- 構造階数 鉄筋コンクリート造  
(一部鉄骨鉄筋コンクリート造)  
地上3階建
- 工事期間 平成9年6月から平成13年3月
- 設 計 株式会社安藤忠雄建築事務所
- 施 工 藤木・井上共同企業体
- 請負金額 2,551,500千円

本施設は、狭山池の歴史ある堤体断面そのものや発掘された数多くの歴史遺産である遺跡・遺構を保存・展示し、その内容と意義を後世に伝えるための博物館です。

計画にあたっては、水と人の心を結びつけることを意図し、博物館は狭山池全域と一体のものと考え、建物が周辺的环境から突出しないよう、地中に埋め込むことにしています。露出する外壁部分も堤防の一部として、周辺の雰囲気となじむよう石積みを採用しました。

建築構成としては、両側に滝面が迫っている水庭、円形の空庭などを中心に、展示物のスケール感にふさわしいダイナミックな空間のシークエンスが得られるよう意図しています。

巨大な堤体展示室の空調では、冷房と暖房で吹き出し方向を上下逆転させ、省エネを図っているとともに、屋上緑化を設け熱負荷の軽減を図っています



- 所在地 南河内郡河南町大字東山299
- 敷地面積 14,318平方メートル
- 建築面積 3,408平方メートル
- 延床面積 5,925平方メートル
- 構造階数 鉄骨鉄筋コンクリート造  
(一部鉄筋コンクリート造)  
地上2階建地下1階
- 工事期間 平成3年12月から平成5年11月
- 設 計 株式会社安藤忠雄建築事務所
- 施 工 鴻池・三菱JV
- 請負金額 2,766,580千円

近つ飛鳥と名付けられた、この地域には、日本でも有数の古墳群が存在しています。ここには四基の天皇陵を筆頭に二百数十基の古墳群が存在し、日本の歴史の発生期における中心的な場所であったといえます。

この施設は、古墳文化の公開、展示、研究を目的とした博物館です。ここでは新しい試みとして、周囲に点在する古墳群との一体感を創出するために、建物そのものを段状に隆起させました。また周辺には梅林や池があり、散策路が巡っています。

このような環境の中で、この建物は野外活動の拠点としても活用され、地域の中核施設としても機能しています。特に屋根は段状の広場となっており、演劇祭、音楽祭、各種パフォーマンス、レクチャー等多様な使い方が考えられます。

出土品は古墳の中に納められている時と同様な姿で展示され、人々は古墳内部に入っているのと同様の感覚を体験でき、その思いは太古へと誘われます。

氷蓄熱空調方式を採用しています。